

スマトラ島地震

活動期間:2005年3月1日～2005年3月30日

報告者:天野智子

2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震により、インドネシア・アチェ州の西海岸にある町ムラボーでは、被害は海岸から約3キロ内陸まで及んでおり、海岸付近は壊滅状態でした。ここは、インドネシア政府軍とアチェ自由運動の間で独立をめぐる紛争地域であり、特別州に指定され外国人の出入りも制限されていました。そんな地域での活動の安全を守る為、巡回診療に際してはインドネシア軍に活動予定地域を報告し、インドネシア赤十字社の方達と行動を共にすることが定められていました。紛争地域で安全に活動できるのは、赤十字が中立であるという共通認識があって初めて可能となることを再認識しました。

避難民の方は、水や食料が十分でない中で、一つのテントに何家族もが一緒に暮らす生活で、日中は40度を越す猛暑の中での復旧作業、夕方や夜には雷を伴って豪雨となることもあり、避難テントが水浸しになってゆっくりと睡眠をとることが出来ないこともあったようです。また、津波のことを思い出したり、亡くなった家族や今後の生活のことなどを考えると、頭痛がしたり眠れなかったりすると訴える方が全体の約1割もおられました。

通訳として働いていたインドネシア人の方も、殆どが被災者でした。日本での出稼ぎで得た貯金でようやく開いた店が全壊して何もかも失くしてしまった人、親族を何人も亡くした人、津波にさらわれて泳げない人がすぐそばで溺れていくのを助けることが出来なかったと悔やむ人などが、明るく一生懸命に働く姿に、私達も随分と力づけられました。帰国直前に2度目の大地震があり、11名のメンバーが期間を延長してニアス島での救援活動を続けました。

